


第3次熊本市環境総合計画実績報告書
(抜粋版)

【令和2年度(2020年度)分】



～未来へつなぎ、世界に誇れる環境文化都市～

令和3年(2021年)11月
熊 本 市

「第3次熊本市環境総合計画実績報告書」について

この「第3次熊本市環境総合計画実績報告書」は、令和2年度(2020年度)における、第3次熊本市環境総合計画(以下「本計画」といいます。)の目標達成度や施策の実施状況を報告するために作成したもので、報告書本編の概要を記載しています。

本概要版では、本計画の全体的な目標である成果指標の状況と、中目標ごとの成果指標の状況を主に記載しています。詳細な取組状況などは本編において小目標ごとに記載しています。

環境目標(基本計画)の達成状況

本計画の全体的な目標として、以下に記載の項目を成果指標として設定しています。

成果指標	基準値(H21)	実績値(R2)	目標値(R2)
良好な環境が守られていると感じる市民の割合	66.1%	57.4%	75.0%

ここ数年の数値の悪化は、ごみに関する問題や自然環境の悪化により良好な環境が守られていないと感じている市民が多いことが原因です。一部のごみ出しマナーの改善や身近な自然・生活環境の改善が必要です。

環境目標1 豊かな水と緑をまもり生きものを育む都市をつくる

中目標1-1 恵み豊かなくまもとの地下水をまもる

主な取組

- 市民・事業者・市が一体となった水質・かん養・節水の総合的な地下水保全の取組推進
- 公益財団法人くまもと地下水財団との連携と、住民・事業者・行政が一体となった広域的な地下水全対策の推進

成果指標	基準値(H21)	実績値(R2)	目標値(R2)
地下水が市民共有の財産として守られていると感じる市民の割合	51.9%	66.8%	70.0%

新型コロナウイルス感染防止のため、手洗い、うがいをしっかりする必要がある状況で、蛇口をこまめに締めるなど身近な節水方法を含め、地下水保全の取組についてわかりやすく広報啓発をしていきます。

中目標 1-2 自然豊かな「森の都」をまもり、育てる

主な取組

- 緑の保全と緑化の推進
- 緑化スペースの少ない街なかの新たな緑の創出

成果指標	基準値 (H21)	実績値 (R2)	目標値 (R12)
中心市街地に緑が多いと感じる市民の割合	69.9%	58.3%	80.0%

市民がより一層緑を実感できるよう、熊本市緑の基本計画を適切に運用し、緑化の推進や緑地の保全だけでなく、緑の活用や人づくり、組織づくりなどに取り組みます。

中目標 1-3 人と生きもののつながりについて学び、まもる

主な取組

- 自然とのふれあいをとおした、生物多様性や自然環境について学ぶ機会の提供
- 生物多様性や自然環境の保全と、次の世代への継承

成果指標	基準値 (H23)	実績値 (R2)	目標値 (R4)
生物多様性について知っている市民の割合	17.5%	16.2%	25.0%

生物多様性戦略の改定に向けて、取組を充実させるとともに、今後も関係機関と連携し、生物多様性に関するイベントを開催するなど積極的な普及啓発を推進していきます。

環境目標 2 くまもとの風土を活かした都市をつくる

中目標 2-1 歴史文化をまもり、育てる

主な取組

- 史跡などの歴史的文化遺産の保護と、適正な保存整備の推進
- 復旧整備を進めている熊本城を核とした、本市の自然環境などを活かした観光資源の更なる魅力向上
- 環境分野の新産業や環境負荷の低減に努める農水産業の支援

成果指標	基準値 (H20)	実績値 (R2)	目標値 (R2)
文化に親しんでいる市民の割合	31.1%	27.8%	47.0%

地震後、復興が進むにつれて少しずつ実績値は上がってきていたため、今後も感染症対策を万全に行いながら熊本の歴史や文化を活かした取り組みを進め、市民が安心して文化に触れる機会を提供していきます。

中目標 2-2 魅力ある都市空間をつくる

主な取組

- 地域の特性に即した都市景観の保全、育成、創造
- 緑化や市民の憩いの場である公園の適切な維持管理と計画的な整備
- 緑化の推進や住環境に配慮した、安全で快適な道路環境の確保
- 建築協定制度の活用などによる良好な居住環境の誘導

成果指標	基準値		実績値	目標値
	H21	H28	R2	R2
地域の特色あるまちなみに関する満足度	/	—	47.4%	増加
良好な居住環境が保たれていると感じる市民の割合	57.5%	/	63.1%	65.0%

地域の景観を特徴づける歴史的建造物の保存や、眺望景観の保全などに引き続き取り組んでいく必要があるほか、景観に関する施策・事業の推進と共に、広報活動に努めていきます。民間事業者に対する指導や助言等だけではなく、景観教育等を通じて、景観形成に対する市民の関心を高め、自発的な取組を促進していきます。

また、良好な居住環境に向けた施策をさらに推進していきます。

環境目標 3 環境負荷を抑えた循環型社会をつくる

中目標 3-1 ごみを減らし、資源循環のまちをつくる

主な取組

- ごみ減量・リサイクルへの積極的な参画と協働の推進
- 3Rの推進によるごみ減量・リサイクルの推進
- 適正かつ環境に配慮したごみ処理体制の確立
- 産業廃棄物の適正な処理
- 「水銀フリー」社会実現に向けた行動の推進

成果指標	基準値 (H21)	実績値 (R2)	目標値 (R2)
市民1人が1日に出すごみの量	1,037 g	952 g	881 g
家庭ごみのリサイクル率	16.5%	25.6%	30.0%

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各家庭で過ごす時間が増えたことから、家庭ごみが増加した一方で事業ごみが減少しています。

また、家庭ごみのリサイクル率の増加について、各家庭における資源物の排出量が増加したことが要因の一つとして考えられます。

今後は、新型コロナウイルスの影響による生活様式の変化を踏まえた取組を実施するとともに、これまでの3Rの取組に加えて、新たな課題であるプラスチック削減、食品ロス削減に向けた取組を実施していきます。

環境目標 4 地球温暖化を防ぐため低炭素社会をつくる

中目標 4-1 地域から地球温暖化の防止に貢献する

主な取組

- 水と緑に輝く豊かな自然と歴史・伝統が息づく低炭素で暮らしやすいまちづくり
- 自家用車に頼らなくても快適に移動できる、省エネルギー・創エネルギー型のコンパクトなまちづくり
- ふるさと熊本を愛し、地球市民としての自覚を持つ人々が豊かさを実感し生き生きと交流するまちづくり

成果指標	基準値 (H20)	実績値 (H30)	目標値 (R2)
温室効果ガス削減率 (H19 比)	5.0%	29.1%	6.2%

温室効果ガス削減率は、平成 28 年度 (2016 年度) に目標値を達成し、更に削減が進んでいます。熊本連携中枢都市圏地球温暖化対策実行計画では「気候非常事態宣言」を行い、温室効果ガスの削減目標の実現に向けた対策・施策を定めています。また、圏域が連携することでより高い効果を得ることができる取り組みとして、地域資源を活用した再生可能エネルギーの地産地消など 4 つの重点取組を掲げています。

今後も、脱炭素社会の実現に向けて圏域全体で取組を推進していきます。

環境目標 5 市民が快適に過ごせる生活空間をつくる

中目標 5-1 心地よい生活空間をつくり、安全・安心な暮らしをまもる

主な取組

- 大気汚染や騒音、振動、有害化学物質などの環境問題への的確に対応による、良好な生活環境の保全
- 河川や海などの公共用水域の水質保全
- 食の安全・安心の確保など身近な生活衛生の維持
- 気候変動の影響が予測される災害や健康被害の発生時における、危機管理防災体制の整備
- 安全・安心な暮らしをまもるための、環境保全に関する調査、研究の充実

成果指標	基準値	実績値 (R2)	目標値 (R2)
事業場公害苦情発生件数	115 件 (H26)	128 件	105 件
水質汚濁事故発生件数及び排水基準違反件数	52 件 (H22~26 平均値)	58 件	減少

大気汚染防止法の改正等規制等の強化により目標値設定時よりも苦情件数が増加していると考えています。

水質汚濁事故及び排水基準違反は、依然として減少傾向とは言えない状況にあります。件数の減少に向けて、引き続き、事業者への立入指導や啓発を行います。

重点協働プロジェクトの達成状況と施策の実施状況

ひとづくりプロジェクト ～環境教育～

主な取組

- 新しい価値観の提案・啓発
- 世代や対象に応じた環境教育の推進
- 地域別環境教育の推進
- 環境保全活動のけん引役の育成
- 環境学習拠点の整備

指標	基準値	実績値 (R2)	目標値 (R2)
日頃、環境保全のための実践活動を行っていますか。	51.5% (H21)	59.8%	70.0%
環境について学ぶ機会が増えてきたと感じますか。	64.9% (H23)	39.1%	増加

新型コロナウイルス感染症拡大により人を集めての環境学習が困難であり、集合型のほとんどの環境教育は中止となりました。

しかし、「新しい生活様式」に沿った環境学習を開始しており、現在市民の情報収集手段として利用が盛んである SNS を活用した情報発信を行い参加者の増加を図ることで、環境保全のための実践行動を促していきます。

まちづくりプロジェクト ～協働～

主な取組

- 環境保全活動の支援
- 環境保全活動の促進
- 情報交換・連携の場の形成
- 国内外における人材・情報交流の推進

指標	基準値 (H23)	実績値 (R2)	目標値 (R2)
日頃、地域の環境保全活動に参加していますか。	39.0%	24.7%	増加
環境保全に関わるまちづくりの活動が増えてきたと感じますか。	71.7%	50.3%	増加

地域の環境保全活動に参加する市民の割合は、4年連続して減少する結果となりました。また、環境保全に関わるまちづくりの活動が増えてきたと感じる市民の割合も、4年連続して減少する結果となりました。

本計画に掲げる環境活動支援事業補助やエコリーダー等の事業は廃止や縮小しているなど、現状の施策と環境総合計画が乖離している現状があります。

重点協働プロジェクトは、ひとづくり・まちづくりともに抜本的な見直しを行います。

**第 3 次熊本市環境総合計画実績報告書
(抜粋版)**

【令和 2 年度(2020 年度)分】

発 行 令和 3 年(2021 年)11 月

編 集 熊本市環境局環境推進部環境政策課

熊本市中央区手取本町 1 番 1 号

TEL 096-328-2427
